

〈日本そろばん資料館〉

JAPAN SOROBAN MUSEUM

所在地：東京都台東区下谷
 建物用途：資料館
 主体構造：鉄筋コンクリート 改修
 改修部床面積：76.72㎡ (23.20坪)
 設計期間：2012.10～2013.03
 工事期間：2013.03～2014.04



【エントランス】

新たなファサードとして外から展示棚が見えるようになっていた。
 展示棚Hがそろばん資料館のシンボルになり、来場者が一目でそろばん資料館ということが分かりやすくなっている。



【展示棚F】

調査ギャラリーとして調査及び研究をするための机になる。



【展示棚A】

趣意文や企画展の説明など文章による展示ができるようになっている。
 扉を開けば収納になっている。



【展示棚G】

古書や書籍を展示するコーナー。
 本棚の一部に映像を埋め込んでいる。
 使用時だけ映像が浮かび上がるようになっており、テレビ画面の存在を感じさせないようにしている。



【展示棚B】

産地や年代、大きさなど様々な種類のそろばんを並べ替えることが可能。
 扉には鉄板が組み込まれており、磁石を付けた木製フックでそろばんを展示できるので、ネジ穴等の余計なものを見ずに、そろばんを鑑賞できる。



【展示棚H】

そろばんの約33倍のプロポーションになっており、そろばんの作り方や歴史年表等の長さを活かした展示に対応可能。
 棚の色は奥に行くにつれて明るくなるようにグラデーションにしており、奥への期待感を持たせている。



【展示棚の収納】

そろばん：約700丁
 書籍類：約1,500冊
 グッズ類：約100点の収納スペースを確保。
 そろばんを展示したまま扉の閉閉ができるようになっている。



【バックヤード】

書籍が収納できる本棚になっている。
 手前の台では書籍をPC検索できるコーナーになっている。

そろばんのアイコンが奥へと誘導していく

□そろばん資料館の目的

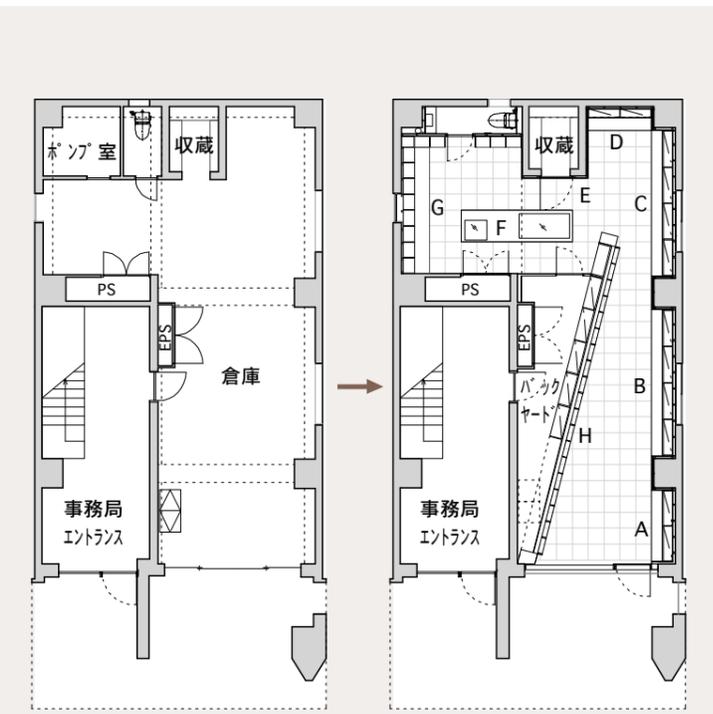
全国珠算教育連盟東京事務局1階倉庫を改修し、倉庫に眠っている多くの古書や古そろばん・そろばんグッズを展示することで、後世に伝え残すことを目的としている。

□そろばん資料館の特徴

細長いL字の形状をした部屋は奥まで見通せない面がある。閉鎖的な資料館ではなく、地域に開いた施設となるように、建物の前を通る人に一目でそろばんの資料館だと分かり、奥へと入っていきたくするような施設を目指した。

□展示の特徴

「展示」「収納」「調査」の3つのスペースを有効に機能させる配置が求められた。そろばん資料館を特徴付けるそろばんをイメージした展示棚Hをメインとして、ただ陳列するのではなく、様々なそろばんや書籍、グッズに合わせた展示方法をとることができるようにした。
 集中して鑑賞できるように既存の柱・梁型を収納と組み合わせて目立たなくさせた。管理側の使い勝手として、室内側のドアと資料館の間にバックヤードを設け、収納のみならず防犯面や美観にも配慮した。



改修前平面図 S=1/200

改修後平面図 S=1/200



【展示棚C, D】

古いそろばん等のサイズが不定形なものやグッズを展示することが可能。
 ホコリが付かない方がよい物や、触れられない物に対応できるようにガラス扉を設置している。



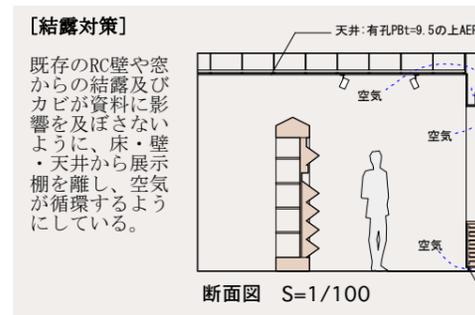
【展示の工夫】

どこ位置でもそろばんが設置できるように磁石でつくようになっているので、背面がきれいのままそろばんを鑑賞できる。
 そろばんを引っかけるフックは磁石に木の丸棒を埋込み、違和感のないものになっています。



【展示棚E】

そろばんと関連のある和算の図形に関する公式などの展示をしている。
 壁面と扉を同じ割り付けの枠とすることで、既存の収納スペースを来館者に感じさせずに展示空間に溶け込ませている。



断面図 S=1/100